

研究種目： 基盤研究（B）  
研究期間： 2006～2009  
課題番号： 18320110  
研究課題名（和文） 琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究  
研究課題名（英文） Comprehensive research on relationship between nature  
and human activities around the Lake Biwa

## 研究代表者

水野 章二（MIZUNO SHOJI）  
滋賀県立大学・人間文化学部・教授  
研究者番号：40190649

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：歴史的環境、琵琶湖、内湖、地籍図、安治区有文書、中世遺跡

## 1. 研究計画の概要

文献史学・考古学・地理学・民俗学の研究者が協力し、徹底した史資料の相互批判を前提にその共有化を図るとともに、共同調査・研究を通じて、新しい環境史研究の方法の構築をめざす。対象である琵琶湖集水域は完結性の高い地理的・歴史的空間で、農・林・漁業や交通・流通などの社会的分業を高度に発達させるとともに、文献史料や民俗資料に恵まれ、伝統的な景観・環境もよく保存されているなど、環境史研究にとって最適のフィールドである。かつて琵琶湖に多く存在した内湖は、漁労や狩猟・採集などの多様な生業の場であると同時に、津や城館・集落などが立地し、支配の拠点ともなったが、水位変動などの影響によってダイナミックに消長を繰り返した。本研究では内湖に焦点をあて、琵琶湖の歴史的環境の変化と人間の関わりの具体的な姿を、複合的な視点から明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

(1) これまで刊行された滋賀県内の発掘調

査報告書を網羅的に収集・精査して、古代・中世遺跡の成立・推移・消滅の過程や条里地割施工との関係がわかるように発掘成果を整理し直し、開発と河川・琵琶湖との関連などに留意しながら、遺跡立地とその変遷の再検討を進めた。

(2) 津田内湖に面する南津田村文書（国文学研究資料館所蔵）の調査を進めて琵琶湖の環境に関する文書を選び出し、その一部をマイクロ撮影した。また近世から続く葎卸問屋である西川嘉右衛門家文書（近江八幡市）の調査を進め、琵琶湖の内湖環境に関する文書を選び出してマイクロ撮影した。同じくヨシ帯などの利用・管理をめぐる周辺村落との紛争など、琵琶湖の湖岸環境に関する情報を多く含む史料群でもある安治区有文書（野洲市）のうち、中・近世文書の調査を実施し、絵図類を含め、近世までの全点の撮影を行った。それとともに中世漁業史料などの重要史料を多く伝える長命寺文書（近江八幡市）や大島奥津島神社文書・沖島共有文書（近江八幡市）の調査・収集を行なった。

(3) 近江八幡市・旧能登川町・安土町・旧

今津町・高月町などで、琵琶湖の湖岸環境を直接示す資料である明治期の地籍図の所在確認調査を行い、近江八幡市では専門家による写真撮影を行った。それらの地籍図は、CD化して利用の便を図った。

4、大中の湖や沖島、大島奥津島神社・長命寺周辺地区（以上近江八幡市）、西浅井町塩津地区、彦根市荒神山西部、野洲市安治地区など対象に、共同の現地調査を実施するとともに、それぞれの視点からの琵琶湖の歴史的環境に関する個別研究を進めた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）琵琶湖集水域の環境に関わる発掘調査報告書の網羅的整理は、専門知識を有する京都大学大学院生らの協力を得て順調に進み、一部地域を残すのみとなった。史料収集については安治区有文書・大島奥津島神社文書をはじめ、注目していた文書群の調査・収集をほぼ済まし、地籍図も大中の湖周辺地域を中心に、CD化することができた。現地調査についてはまだ不十分な点があるが、今後の報告書作成と平行して進めていきたい。

### 4. 今後の研究の推進方策

大学の夏期休暇中に、残されている地区の発掘調査報告書の整理を完了し、県内遺跡のデータ入力・分析を終了して、古代・中世遺跡全体の立地とその変遷の過程を明確にする。それとともに、これまで収集した安治区有文書などの文献史料や地籍図の分析と現地調査の成果を統合して、琵琶湖の歴史的環境の変化と利用のあり方を多面的に検討した論文を執筆する。10月には成果をまとめて、出版助成を申請する予定である。

### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計10件）

①橋本道範、日本中世における水辺の環境と生業、史林92—1、4—35、2009、有

②佐野静代、水辺の環境史と「二次的自然」をめぐって、歴史科学196、32—41、2009、有

③林博通、琵琶湖湖底遺跡・尚江千軒遺跡の考古学的調査と地盤工学的調査、人間文化22、19—26、2008、無

④水野章二、中世の水害と荘園制、再考 荘園制、123—155、2007、無

⑤市川秀之、大和のムラ・近江のムラ、奈良女子大学文学部紀要研究教育年報4、75—85、2007、無

⑥林博通、琵琶湖湖底遺跡・下坂浜千軒遺跡の調査、淡海文化財論叢2、120～129、2007、無

⑦市川秀之、米原市志賀谷におけるオコナイ行事の変容、淡海文化財論叢2、253～259、2007、無

⑧佐野静代、日本における環境史研究の展開とその課題、史林89—5、99～126、2006、有

⑨佐野静代、近江国筑摩御厨における自然環境と漁労活動、国立歴史民俗博物館研究報告113、85～108、2006、有

⑩宮本真二・中島経夫、縄文時代以降における日本列島の主要淡水魚の分布変化と人間活動、動物考古学23、39～54、2006、有

〔図書〕（計3件）

①水野章二、中世の人と自然の関係史、吉川弘文館、344、2009

②佐野静代、中近世の村落と水辺の環境史、吉川弘文館、348、2009

③前畑政善・宮本真二、鯰（ナマズ）イメージとその素顔、八坂書房、260、2008